

令和5年度 保育所自己評価

保育士自己評価より

●現状●

- ・ 子どもの気持ちに寄り添い、子どもの話にしっかりと耳を傾けることを心掛けている。
- ・ 子どもが何をしたいのかを考えて声掛けをする等、子どもの主体性を大切にしている。
- ・ 子どもの意見を否定することなく、一人ひとりと向き合い、気持ちを受け止めるようにしている。
- ・ 子ども同士のトラブルがあった際には、双方の話聞き、子どもの思いや考えに寄り添いながら解決の手助けができるようにしている。
- ・ 活動を行う際には、その活動がやらされているものにならないように言葉掛けや雰囲気作り、環境構成を工夫するようにして、子ども達が楽しんで取り組めるように心掛けている。
- ・ 子どもが安心して過ごすことができるように、目を見て、優しい表情で接するようにしている。
- ・ 小さな成長を見逃さないようにし、できたことをたくさん褒め、保護者にも伝えて喜びを共有できるようにしている。
- ・ 研修等で自分自身の保育を見つめ直して、保育力を高めるよう努力をしながら、周りの職員と協力していくことを心掛けている。
- ・ 子ども一人ひとりを尊重して、自己肯定感を高めてあげられるような関わりや言葉掛けをし、子どもが様々なことに挑戦できるように関わり方を工夫している。
- ・ 子どもの「やってみたい気持ち」を大切にし、安全であるか見守りながらも子どもの自発的な気付きを促すことができるように意識している。
- ・ 子どもの起床時間や排便の回数、食欲、体調などを連絡ノートや保護者との会話から把握して保育にあたるようにしている。園での生活リズムに合わせるだけでなく、それぞれの子どものに合わせて保育を行うように心掛けている。
- ・ 連絡帳や保護者との対話で知った担当の子ども情報をクラス全体でも共有するようにして、クラスの保育士全員で一人ひとりの子ども達を見るように意識している。
- ・ まだ発語のない子どもに対しても、様子をよく見て、思いや気持ちを感じ取り、優しい言葉掛けをしていくこと大事にしている。
- ・ クラスの子ども達全員に朝の挨拶をするように心掛けている。目を見て、笑顔で挨拶することでその日の子どもの状態を把握するとともに、子ども達との信頼関係が築けるようにしている。

●保育所としての課題●

- ・ どの保育士も、子ども達の人権や主体性を尊重し、一人ひとりを大切に日々保育にあたっている。クラス運営に関しても、子ども達の発達や興味関心に合わせて、保育計画をたて、環境を構成し、活動をそれぞれ工夫して展開している。しかし、コロナウイルスの影響で昨年度まで十分な研修等を実施できていなかったため、自身の保育力をどのように高めたらよいか悩む保育士も多くいた。令和5年度は園内研修を実施できたが、今後保育士の希望に添った研修も入れていきたい。
- ・ 令和5年度から異年齢交流の中で子ども達がさらに成長できるように3、4、5歳児の縦割りクラスを始めた。担任をする保育士はこれまで取り組んできたことを生かして、新しいことへ挑戦しようという意気込みとともに安全面により一層気をつけたり、発達段階に合わせた保育内容を考えたりと今まで行ってきた保育との違いで緊張感を味わう1年であった。3、4、5歳児の縦割りクラスが4クラスあるため各クラスで連携をとりながら、フリーで動く保育士や保育補助の先生を配置することで一人ひとりの子どもを大切にしたい保育を継続していきたい。